

金沢大学の感染症対策

〈学生支援の視点より〉

吉川 弘明

(金沢大学保健管理センター 教授)

一 はじめに

本年四月からの麻疹の大学生における流行は、大きな衝撃と引き続く波紋を社会に投げかけた。すでに過去の疾患であると思われる麻疹の強い感染力と、成人麻疹の発症に、人々は脅威を覚えた。急激な需要に伴う麻疹ワクチン流通の停止がおこり、さらに一時的にせよ、多数の検体によって抗体検査機関が麻痺したことも人々の不安をあおることとなった。昨今の、SARS流行や、鳥インフルエンザ発症例の情報がメディアを通じて十分広がっているところに、ノロウイルス感染症を経験された方も少なからず

いたと思われるので、感染症に対する恐れは感じていたはずである。麻疹、風疹などのウイルス感染症は、過去の悲惨な体験から予防方法が確立された疾患であったはずである。ところが、ワクチンに対する不信感やワクチン接種に対する無知は、ごく基本的なワクチンによる疾病予防という行動に対する姿勢を曖昧にしている。私たちは、大学の健康管理に携わる上で、予防できる疾患は計画的に予防すべきと考えている。そこには、公衆衛生的な疾病予防の考えよりも、むしろ、これから広い世の中へ出て行く学生たちに、自分の身を守る術を身に付けていってほしいという学生支援の考え方が基本にあった。

二 感染症対策の端緒

私たちは、活動のよりどころとなる金沢大学保健管理センターの行動規範を次のように定めている。

- (一) 自分に対しても社会に対しても、幸せをもたらすような人材の育成を目指す。
- (二) 卒業生には、長い人生を無事に送っていきける生活の知恵を身に付けさせる。
- (三) 予防可能な疾患や状態に対して、積極的に介入する。
 - 1 生活習慣病や頭痛などのフィジカルな問題
 - 2 うつ病や不登校などのメンタルな問題
 - 3 感染症などの環境要因による問題

私たちは、決して感染症に特化した部門ではなく、学生の支援を考えて行動することを常としている。従って、今回の感染症対策は、私たちの進めている取組の一部である。私たちは、結核を始めとする感染症の集団発生に対応した経験から、他校での麻疹集団発生、SARS、鳥インフルエンザなどの問題に対しては危機感を常日頃もっており、学生を様々な危機から如何に守るかを真剣に考えていた。計画が具体的に進められたのは、平成一七年のことである。

平成一七年七月二一日、二二日に全国大学保健管理協会東海・北陸地方会開催を担当するにあたり、パネルディスカッションの一つに「感染症と大学保健管理」というテーマを用意し、各界の有識者にご講演をお願いした。そのご意見を参考に、金沢大学の感染症対策基本方針が定まった。また、それと並行して学内での計画の説明を進め、その過程には、十分な時間をかけるように努めた。その際、アドバイスを頂ける機会にも恵まれ、計画の遂行に役立った。

三 平成一八年度の感染症対策

平成一八年度が大学をあげての感染症対策の始まりとなったが、基本方針は次のとおりである。

- (一) 麻疹、風疹、流行性耳下腺炎、水痘の四疾患に対する対策を講じる。
- (二) 学部新入生を対象として、四疾患に対する血液抗体検査を行う(費用は本人負担)。
- (三) 抗体価低値の者に対する予防接種の勧奨と機会の提供を行う(費用は本人負担)。
- (四) 予防接種歴、罹患歴の調査を並行して行う。
- (五) 四年計画で、キャンパスの対策を遂行する。

表2 平成18年、19年の受診率と予防接種対象者の割合

	定期健診 対象者 (人)	受診率		予防接種対象者				
		健診(%)	抗体検査 (%)	麻疹(%)	風疹(%)	流行性耳下 腺炎(%)	水痘(%)	
H18	男子	1,176	99.7	91.7	11.5	12.2	16.0	2.4
	女子	664	99.7	92.8	9.6	20.1	10.9	4.1
	合計	1,840	99.7	92.1	10.8	15.1	14.2	3.0
H19	男子	1,117	99.6	99.5	8.7	18.5	18.5	3.0
	女子	680	100	100	6.5	26.9	16.8	2.4
	合計	1,797	99.8	99.7	7.9	21.7	17.9	2.7

表3 予防接種申込者(学部新入生)の人数と割合

	麻 疹	風 疹	流行性 耳下腺炎	水 痘
H18	107人 (58.5%)	138人 (53.9%)	143人 (59.6%)	29人 (56.9%)
H19	127人(90.0%) MRを含む	244人(62.7%) MRを含む	186人 (57.9%)	28人 (57.1%)

混合ワクチン(MRワクチン)を併用した。②抗体検査未受診の学部三、四年生、大学院生の抗体検査の実施。また、キャンパス内で麻疹発症があった場合は、本人の登校を停止するとともに、接触者の抗体検査を急ぎ行い、抗体がない者には予防接種勧奨を呼びかけた。この時に、発熱した学生は登校を禁止するとともに、保健管理センターに連絡をとるように指導した。本年度、学生の麻疹発症は二名あったものの、早期介入により二次以降の感染者は出なかった。全学生を対象とした抗体検査は五月二十八日から六月一日までの一週間、麻疹、風疹、流行性耳下腺炎、水痘の四疾患を対象に行った。学生には、ホームページ、掲示により抗体検査を受けるよう通知した。その結果、対象者六三二七人の内五五・二%にあたる三四九一名が受診した。予防接種対象者の割合を、表4に示す。これらの抗体検査の費用にも、金沢大学学生保健組合の余剰金を充てた。また、在学生に対する予防接種勧奨を行い、風疹に対して七月二五日、三一日に、水痘は一〇月一五日、流行性耳下腺炎は一〇月一六日から一八日、麻疹は一〇月一九日に、予防接種を行った。今後、一月および二月にも、四疾患の予防接種を設定している。

麻疹、風疹、流行性耳下腺炎、水痘の四疾患に対策を行ったのは、これらの疾患に本人が罹患した場合、①成人では重症化する可能性があること、②学生は教育実習や介護体験などで小児や高齢者に接する機会があり、学生が感染体を弱者に移すようなことがあってはならないこと、③これらの疾患の特異的な治療方法はないが、予防接種は有効性・安全性ともに確立された予防方法であること、がその理由である。また、将来、自分の子供に対しても正しい行動がとれるようにという、公衆衛生学的な教育的側面も期待した。

抗体測定方法ならびに予防接種勧奨基準に関しては表1に示す通りである。実施にあたっては、学生本人と保護者に対して印刷物およびホームページで説明を行った。また、電話、メールなどの質問に対しても個別に対応をして、十分なインフォームド・コンセントを得るよう努めた。一年生に対する健康診断は、四月四、五、六日に行われ、対象者一八四〇名の内定期健康診断を受けたのは一八三四名(九九・七%)、抗体検査を受けたのは一六九四名(九九・二%)であった。予防接種対象者決定は五月一四日になされた。五月三〇日から学生個人に結果通知をし、必要な者には予防接種勧奨がなされた。予防接種は外部医療機関に

表1 予防接種勧奨基準抗体価

	測定法	接種対象
麻 疹 風 疹	EIA (IgG)	< 4.0
	HI	男性: ≤ 8(倍) 女性: ≤ 16(倍)
流行性耳下腺炎 水 痘	EIA (IgG)	< 4.0
	IAHA	≤ 2(倍)

委託して、六月末より麻疹集団接種を、九月末から風疹、十一月に流行性耳下腺炎、二月に水痘の集団接種を行った。

四 平成一九年度の感染症対策

平成一九年度の基本方針は、一八年度と同様であったが、一つ大きく異なったのは、抗体検査に係る費用を全て無料にしたことである。この費用には、金沢大学学生保健組合の余剰金を充てた。新入生の受診率と

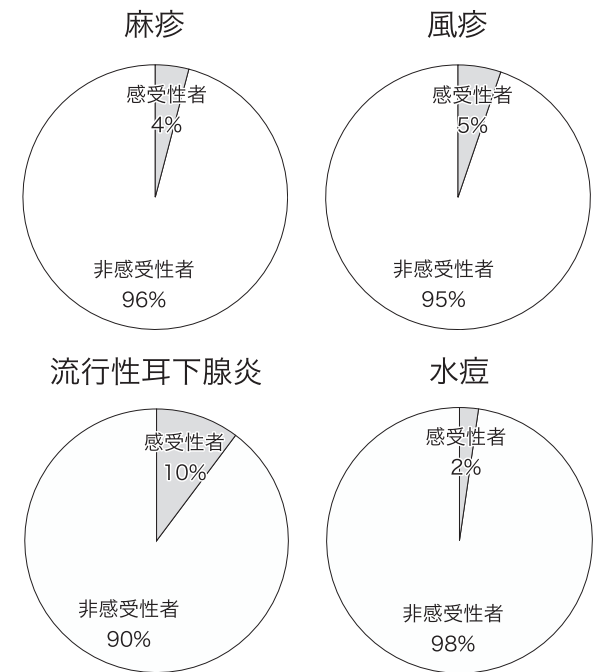
予防接種対象者の割合を表2に、予防接種申込者の人数と割合を表3に示す。しかし、学部新入生を対象とした我々の計画は、変更を余儀なくされたことになった。それは、首都圏を中心としたキャンパスでの麻疹の大流行が原因である。日々、大規模な休講のニュースが入ってくる中で、我々は、急遽、次の二点を実行に移した。①学部新入生に対する麻疹ワクチン接種を予定より一ヶ月早め、五月二五日に設定。この際、本年度から使用可能となった麻疹風疹

表4 H19年度の学部3、4年生、大学院生に対する抗体検査結果

対象者	受診者	予防接種対象者				(MRワクチン対象者)
		麻疹	風疹	流行性耳下腺炎	水痘	
6,327人	3,491人	285人	365人	714人	160人	(41人)
	55.2%	8.2%	10.5%	20.5%	4.6%	

MRワクチン：麻疹風疹混合ワクチン

図1 抗体検査受診者(6,976人)における、予防接種勧奨に応えた学生を除いた推定感受性者の割合



抗体検査受診者は六九七六人で六六・三%が抗体検査を受けている。これらの抗体検査受診者に対して、予防接種を呼びかけた結果の推定感受性者を図1に示す。なお、全学生を対象とした抗体検査終了後も追加抗体検査の希望者が出たため、抗体検査日を追加設定した(最終日は二月八日)。来年度は、大学院、編入学を含めた新入生に今年度と同様の方法で、

五 現時点におけるキャンパス内の対策状況と今後の予定

平成一九年一〇月三十一日現在、在籍学生数一万五二八人に対し、

調査票、抗体検査(無料)、予防接種勧奨(本人費用負担)を進める予定である。

なお、本年度からは、学生、職員(ただし、附属病院は独自システムで施行)、キャンパス内で従事する者(大学生活協同組合、関連会社)を対象にインフルエンザ予防接

種を行うことになっている。費用は自己負担であるが、大学生生活協同組合の窓口での予防接種券の購入を可能とし、利用者の利便性を高める予定である。また、昨年度の入試にはノロウイルス対策として、汚染除去、感染者の別室受験を指導し、試験の円滑な実施に貢献した。本年度も、同様に実施の予定である。

六 おわりに

私たちの感染症対策に関しては、他大学からも問い合わせがあった。また、厚生労働省の予防接種に関する検討会において、計画を説明する機会も与えられた。自身は、決して感染症に詳しい者ではないが、予防医学の領域で計画を実践する機会を与えられたことを有り難く思っている。先にも述べたように、保健管理センターの行動規範に忠実に行動した結果が、今回の対策となった。その際、学内外の専門の方々の貴重な意見が参考になった。また、学内の各部局に対する計画の説明と意見を聞く機会も、大学の状況を把握する上で重要であった。本年の麻疹流行に伴い急遽とった対策の学生への説明の機会、保健管理センターのホームページと掲示、ならびに学生ポータルサイトに限

られていたが、多くの学生の参加を得ることができた。一般に、ある集団で、特定の感染症に対して九五%以上の免疫保有率があれば、その疾患の流行を防ぐことができる。考えられている。私たちの対策では、全ての学生が抗体検査を受けたわけではないので、そのような理想的な状態に達することはできなかった。しかし、必要な者には免疫を付けさせ、同時に感染症に対する基本的な姿勢を身に付けさせることはできたと思っている。このような私たちの取組は感染症対策に限らず、心の健康、体の健康においても進めている。それが、今年度の学生支援GP(心と体の育成による成長支援プログラム)の採択につながったものと考えている。

(参考文献)

- ・吉川弘明他…金沢大学における感染症対策―新入生に対する麻疹、風疹、流行性耳下腺炎、水痘の抗体検査と予防接種勧奨― CAMPUS HEALTH, 四四(一)、六五―七〇、二〇〇七